

JEA援助協力委員会通信 2025 年 6 月号

発行：日本福音同盟援助協力委員会

写真：インレー湖近くの被災者へ救援物資を配布（ハンガーゼロ）



〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-10CC ビル TEL:03-3295-1765 FAX:03-3295-1933

E-mail:admin@jeanet.org <https://www.jeanet.org> 郵便振替:00190-5-7790



巻頭言：背後にある祈りと人を覚えて

JEA 援助協力委員会委員長

日本同盟基督教団

霞ヶ関キリスト教会牧師

佐野 泰道

「ティキコをあなたがたのもとに遣わすのは、ほかでもなく、あなたがたが私たちの様子を知って、心に励ましを受けるためです。」

（コロサイ 4 章 8 節、新改訳 2017）

今年も皆さまと共に、援助協力委員会の働きを続けることができました。心から感謝いたします。今もなお、能登の被災者の方々をはじめ、世界において支援を必要とする人々の上に主の慰めがありますように祈ります。また支援

者として労しておられる諸団体や諸教会から派遣されているスタッフ、ボランティアとして奉仕されている一人ひとりに主の励ましがありますように。

このみことばは、コロサイ教会に送られた手紙の結びです。パウロは「牢につながれて」いましたが（4:3）、パウロのところにはいろいろな人々が訪れていたことがわかります。そのひとりであるティキコは、コロサイ教会にこの手紙を持参した人物です。その他、7 節から 14 節にはティキコを含めた 8 名の名前が記されています。彼らはパウロと共にコロサイ教会のために祈っていたことでしょう。このように、パウロという一人の人の背後には、大勢の人たちが存在していたのです。

これは私たちにおいても共通しているでしょう。私どもの教会は1968年、極東福音十字軍の宣教師夫妻によって開拓されました。この一組の宣教師の背後に、所属教会や母教会、支援教会など、実に大勢の人たちが存在していました。顔も名前も知らない日本の教会をおぼえて祈り、献げてくださった方々がいた。これらの恵みの上に、今があることを覚えます。

支援の働きにおきまして、目の前にいる一人に心を注ぎつつ、その人の背後にいる人たちを想像しながら働くということが大切なのではないでしょうか。援助協力委員会は、現地で支援活動する団体を経済的にバックアップさせていただいておりますが、その団体に募金をお送りすることだけでなく、その支援活動に携わっておられる方々やその背後にいる人たち（ご家族や派遣教会など）に思いを巡らしたいと思わされます。ひとりのスタッフや奉仕者の背後には、その方のために心配しながら祈っておられる人たちがいる。そのような背後にいる人々の理解と協力と支えがあって、支援の働きは継続されています。

さて、援助協力委員会としての働きとして、トルコ・シリアの募金は終了しました。これまでのご支援に感謝いたします。また、ウクライナと能登半島への支援は継続しています。特に、ウクライナが復興支援の段階に入るならば、多くの必要が見込まれます。今後の動きを注視していきます。さらに、3月末に発生したミャンマーでの地震に対する支援が始まっています。また、今後も自然災害や戦争によって、新たな支援が必要となるでしょう。援助協力委員会は、「教会から教会へ」をモットーとして支援を続けてまいります。皆さまのお祈りとご支援を引き続きよろしくお願いいたします。



能登ヘルプからのご報告 とお願い

能登ヘルプ

(能登地震被災災害支援会)

代表

岡田 仰

1) お祈り、ご支援を感謝申し上げます

能登の震災に際しては、発災以来、JEAの皆様には様々な支援をいただきまして感謝しております。お陰様で、ここまで働きを進めてくることが出来ました。今年度5月時点で、ボランティア人数延5,430名、件数764件（重機・温泉除）、支援金総額は約2億円になっています。小さな働きではありますが、「助けて頂いたので、早く事業を再開出来ました」「発災時には絶望していましたが、あなたがたが何度も来て下さるお陰で、もう一度頑張ろうという気持ちに変わっています」等の感想や、ボランティアの方々が働きに加わることで霊的に元気になったという感想はうれしいことです。

2) 能登ヘルプの今後について ～ボランティアの必要～

今後は、仮設支援を中心に働きを進めてまいります。被災地の方々の「やはり寂しい」との声にも表れていますが、アルコール中毒、うつ病、震災関連死の数が増え続けており、なおボランティアを必要としています。ある意味では、キリスト者である私たちの出番ではないかとさえ思っています。被災地は、高齢者の多い地域です。従って、寄り添う働きには高齢の方々が必要です。また、もし若い方々が被災地で奉仕していただきたら、その経験は必ずキリスト者としての成長に益することになるでしょう。若い方々や学生の方々には、何らかの経済的な補助をしたいと考え

ております。是非、能登ヘルプの事務方までご相談ください。

3) 穴水のベースキャンプ、(仮称) 能登ヘルプセンターについて

全国の教会関係者の方々からの声に、是非、穴水にクリスチャンセンターをという声がありました。そのためにお祈りをお願いし、また不動産屋等に働きかけながら土地の取得に取り組んで参りました。しかし、なかなか物件が出ず、困っていました。ところが先般、備えの主が導いて下さり、ある知人の紹介によって、穴水の幹線道路（国道249）沿いに建物付きの土地を2棟得る事ができました。



建物に多少の傷みがありますので、早速、補修に当たっております。願わくは6月下旬に開所式を行い、支援の働きに用いていきたいと思っております。集会スペース、駐車スペースもあり、2棟合わせますと、3グループが同時に使えるような仕様になっています。概算ですが、40名位の方々の収容が可能です。穴水は奥能登のハブ拠点で、とても海のきれいな場所です。電車やバスも金沢とつながっています。是非、ボランティアを兼ねた修養会、キャンプに用いて頂けたら幸いです。また、定住して仕えて下さる働き人を求めています。ご質問等ありましたら、遠慮なくご相談下さい。

能登ヘルプは2年目に入っておりますが、是非、続けて、被災地、被災教会、能登ヘルプの働きのために、ご支援とお祈りをよろしくお願い申し上げます。



ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) の活動報告

ワールド・ビジョン・ジャパン
教会担当

長下部 穰

日頃より、温かいご支援とお祈りを、ありがとうございます。日本福音同盟の皆さまを通じてご支援いただいた「能登半島地震緊急支援」「中東人道危機支援」「ミャンマー中部地震緊急支援」について、感謝を込めてご報告いたします。

1) 能登半島地震緊急支援

能登支援は、WVJの強みを生かし、学校の再開支援、子どもたちの安心と笑顔の回復のサポート、地域の大人たちとの連携の3点に複層的に取り組んできました。

計32か所の学校や保育園などに、掃除用品、時計などの備品、食材・調理器具、給食室の設備などを提供し、震災後の再開を支援しました。また、チャイルド・フレンドリー・スペースの運営に加え、学校と連携して、遠足や修学旅行も実施。さらに、5校の高校に図書カードを贈るなど、学習支援も行い、合計3,020人の子どもたちに支援を届けました。子どもたちの心の回復を支える輪が地域で広がることを願い、内灘聖書教会や光の子保育園の教職員の皆さまを対象に、Psychological First Aid（心理的応急処置）研修も実施しました。

ドライバーを派遣して下さった「能登ヘルプ」、イベントの企画・運営を共に担ってくださ

ったKGKや北陸学院大学の学生など、多くの皆さまとの連携に支えられました。1年3か月にわたった緊急支援活動は一旦の区切りを迎えましたが、今後は、国内子ども支援事業の中で、能登の子どもたちを引き続き見守っていきます。



写真：避難所の要請を受けて立ち上げに関わった「子どもの居場所」で

2) 中東人道危機支援

レバノンには、中東問題を背景とした多くの暴力の犠牲を受けてきた国の一つです。WVは、50年以上の間、レバノンの子どもたちへの支援活動を継続してきました。しかし、昨冬、紛争の激化により現地のニーズが増大。従来の支援を拡大し、再び恐怖の只中に置かれた子どもたちへの対応に取り組んでいます。食料・水・医療などの基本的支援に加え、教育機会の継続や心理社会的支援も実施しています。

これらの取り組みは、「紛争によって子どもたちの未来が閉ざされることは決してあってはならない」という信念に基づいています。この信念の基盤にあるのは、「一人ひとりが神さまに造られた尊厳ある存在」というキリスト教精神です。WVの活動に賛同してくださった多くの皆さまのお力により、4月30日現在、12万人の子どもを含む計35万人のレバノンの人々に支援を届けることができました。

一方で、子どもたちを取り巻く状況は厳しいものと言わざるを得ません。WVの総裁アンドリュー・モーリーは「中東の子どもたちが未来への希望を再構築するには、長く困難な道が待っている」と述べています。

3) ミャンマー中部地震緊急支援

2025年3月28日、ミャンマー中部でマグニチュード7.7の地震が発生。道路の損壊や資金不足による支援物資の遅延、衛生環境の悪化や感染症のリスクなど、被災地の人々は命の危険にさらされています。チャイルド・スポンサーシップを通じて同国・地域で信頼関係を築いてきたWVは、発災当日から支援活動を開始。世界中から集められた募金により、これまでに約11,150人に支援を届けました。しかし一方で、気候変動の影響で毎年被害が拡大している雨季はもう間近です。ミャンマー国内の政治不安が支援活動に影響を及ぼす可能性も懸念されています。避難生活の長期化は避けられず、子どもたちへの虐待や搾取のリスク悪化の可能性もまた否定できません。

報道は減少し、社会の関心は薄れつつありますが、支援を必要とする人々は依然多く存在し、課題も山積みです。



写真：被災したミャンマーの子どもたち

困難に直面する人々に寄り添い、その痛みと共に立つキリストの姿に倣い、WVは今後も子ども

たちの安全と生活再建の働きに取り組みます。そして、平和への祈りの輪の拡大を願い、国際社会に対しては緊急支援と長期的な復興協力の呼びかけを継続していきます。引き続き、祈り支えていただけたら幸いです。



ハンガーゼロの 近況報告

ハンガーゼロ（一般財団法人
日本国際飢餓対策機構）
常務理事

近藤 高史

日頃からハンガーゼロの活動を覚え、お祈りとご協力を頂き感謝します。この数ヶ月の活動報告を致します。

1) 能登半島地震で慰問コンサート

4/4(金)～6(日)に、森 祐理親善大使による復興支援コンサートが計6回、輪島市(門前、町野)、内灘、金沢などで開催されました。能登復興支援センター(趙泳相牧師)、モリユリ・ミュージック・ミニストーリーを中心に、会場毎に地元の支援グループや門前聖書教会、能登ヘルプなどのボランティアにも応援を頂きました。

2) ウクライナに正規スタッフを派遣

ウクライナに対するロシア侵攻以来丸3年、現地に留まって支援を続けてきた王 楠穎(なんえい)ワーカーを、4/1よりハンガーゼロの正規スタッフとして雇用し、改めてウクライナへ派遣しました。現在はウクライナ西部のリヴィウを拠点に国内避難民への物心両面での支援を地元ボランティア団体などと協力して行っています。特に次世代を担う子どもたちの心のケアや、今後予想される終戦後の復興を見据えて準備をしています。



ジトミル州子ども教育支援センターで巡回医療を支援

3) ミャンマー地震被災者支援

3/28にミャンマー中部で発生したM7.7の大地震には、発災以前からミャンマーで開発支援や宣教師として活動をしていた韓国飢餓対策機構のスタッフや、いち早く震源地に近いマンドレーやインレー湖などで食料や衛生用品の配布を行い、日本からは募金でそれを支えてきました。

日本人スタッフを現地に送ることも検討しましたが、地震による3週間の緊急停戦が解除されてからは、軍政府と民主派勢力との間の軍事衝突が懸念されるため、日本からのスタッフ派遣は当分難しい状況です。



4) 5/3(土)平和音楽祭にて募金アピール

平和音楽祭 (いのちのことは社主催、東京・紀尾井ホール) にて戦争と飢餓の関係についてアピールを行いました。ウクライナだけでなく今も紛争下で支援を続けるコンゴ民主共和国、エチオピア、南スーダンについても報告し、約600名の参加者からはクラシック音楽を楽しむと共に紛争地を覚え、祈りとそこで行われる支援に対する募金が捧げられました。



5) 教会防災セミナーを開催

武庫之荘クライストコミュニティチャーチにて昨年より年3回「教会防災セミナー」を開催しました。また5/13には三重県津市でも教会防災セミナーを開催。今後は国内外で発生する緊急災害への支援活動と共に、日本の地域教会が災害にどう備え、またそれがどう地域宣教に繋がっていくのかを、セミナーを通して全国の諸教会と共に学んでいきます。



繋がり支える 歩みを

一般社団法人クラッシュジャパン
代表理事

永井 敏夫

私たちクラッシュジャパンは、「被災された方々に、キリストの愛を携えながら希望を届けていく」ことを中心に、触媒とサポーターとして、被災者支援活動を行う地域教会やネットワークに、さまざまな形で関わっています。

1) 能登での被災者支援

能登半島での被災者支援活動としては、「能登ヘルプ」の世話人方や他の団体のメンバー方と意思疎通を継続しています（交わり、説教支援、仮設住宅での集会サポートなど）。今後もチームを派遣する予定です。



写真：社協の炊き出しに協力

2) 教会防災ネットワークによる防災の備え

首都圏にある諸ネットワークのミーティングに出席しています。地域の教会防災ネットワーク内でLINEグループを作り、ミーティングを重ねながら、企画し実行している姿に励まされています。



写真：横浜での教会防災ミーティング

このようなネットワークが更に地域に拡がり、繋がっていくことを願い、私たちはこれからも出かけていきます。6月26日（木）にOCC416号室にて広域フォーラムを開催し、諸ネットワークの交流と分かち合いを継続する予定です。

3) 災害時の心のケア支援

最近のクラッシュ・ジャパンでは心のケアのセクションとして以下のような活動をしています。

- ・ 「災害ストレスマネジメント」という名称を使いながら、発災時から、人間が関わるおおよそのストレスに対する全人的ケアのため

の活動をしています。

- ・ PFA（サイコロジカル・ファースト・エイド）を含むスピリチュアルケアの全般を学ぶことを通して、災害時の被災者と支援者の両方の立場のケアを大切に考えています。また、支援活動のためのチャプレンシーも含まれます。
- ・ 現在の活動としては、ボランティアトレーニング（被災者ケアとボランティア自身のケア）、ボランティアサポートチームの編成と派遣、更にPSV Japan（Peer Support Volunteer Japan:https://psv-japan.org/wordpress_5/）との連携による惨事ストレスマネージメントセミナー、災害時のチャプレンシーの学びを継続しています。

私たちは、これらのことを通して、知識と訓練を提供し、災害によって起こる霊的、精神的危機に対応するケア奉仕者が増えて行くことを目標にしています。また、全キ災の心のケアセクションに参加しながら、この働きを通して他の団体とも連携して行きます。

++ 援助協力委員会 会計報告 ++

2024年4月1日～2025年3月31日

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
世界自然災害(一般)への支援金(17件)	2,027,000	レバノン人道支援	500,000
ウクライナ支援金(3件)	64,000	トルコ・シリア支援	150,000
トルコ・シリア支援金(7件)	30,000	能登半島地震支援	8,200,000
能登半島支援金(57件)	4,381,225	能登半島地震見舞金	1,800,000
援助協力基金献金(19件)	109,000	能登半島水害	300,000
援助協力基金への繰入金	325,110	諸経費/事務所費	663,919
世界自然災害より補填	2,074	送金手数料	14,152
預金利息	4,414	基金へ繰入(5%)	325,110
預り金	40,000		
収入 総計	6,982,823	支出 総計	11,953,181
前年度繰越金	20,186,848	次年度繰越金	15,216,490

《献金者リスト》（敬称略・順不同） 2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

●援助協力基金（常設）

日本バプ連合清瀬バプテスト教会、東京 FM 小金井教会、日本イエス・キリスト教団岡南教会

●世界・自然災害への支援金（常設）

イムマヌエル綜合伝道団、鎌倉海岸キリスト教会、日本フリーメソジスト教団

●能登地震支援金

姉ヶ崎キリスト教会、イエス福音教団東京教会、市原恵みの森キリスト教会、宇堅福音教会、大磯キリスト教会、OMF ザチャペルオブアドレション、小倉台キリスト教会、霞が関キリスト教会、古賀五楽ヶ丘キリスト教会、JECA 白根福音教会、宗教法人めぐみの丘チャペル、新秋津キリスト教会、宝塚泉キリスト教会、多摩プラーザキリスト教会、知多教会、所沢聖書教会、取手シオン・キリスト教会、西堀キリスト福音教会、日本長老教会玉川上水キリスト教会、日本長老教会知多シオン・キリスト教会、日本長老教会長久手キリスト教会、日本 MB 河内長野聖書教会、日本 MB 港キリスト教会、能勢川キリスト教会、橋本キリスト教会、東近江キリスト福音教会、福音伝道教団太田キリスト教会、福音伝道教団藤岡キリスト教会、HONOLULU CHRISTIAN CHURCH JAPANESE DEPARTMENT、MAKIKI CHRISTIAN CHURCH、松江キリスト教会、横浜キリスト福音教会、和歌山西バプテスト教会、鷺沼キリスト教会、鎌倉海岸キリスト教会、世界福音伝道会、日本宣教連合会、日本ホーリネス教団、伊藤正俊・智恵、小田宣子

●能登水害支援金

宇堅福音教会、北本福音キリスト教会、新秋津キリスト教会、マスタートードシードクリスチャン教会

●ウクライナ支援金

イエス福音教団東京教会、インマヌエル熊本キリスト教会、基督兄弟団

●トルコ・シリア支援金

イエス福音教団東京教会、印西牧の原キリスト教会、インマヌエル熊本キリスト教会

＊支援献金は以下の口座にお振り込みくださいますようお願いいたします

●郵便振替： 00190-5-7790

加入者名：（JEA）日本福音同盟援助協力委員会

●三菱UFJ銀行：神保町支店

加入者名：JEA 日本福音同盟援助協力委員会 013-0305243

三菱UFJ銀行へ振り込まれる場合は、メールか FAX でお名前、住所、連絡先をお知らせください。